

## OB・OG 会長の挨拶 —過去、現在、そして未来—

第1期ゼミ長 白木 俊介

2007年10月25日（木）。東京モーターショウ報道関係者招待日2日目。

朝7:30に幕張メッセに集合。

9:00よりモーターショウ開催。

12:00より全国ディーラー社長を集まる宴席を幕張ニューオータニで開催。

18:00のモーターショウ終了後、明日からの一般公開に備え搬入物の運び入れ。

23:00。会社に戻り、メールのチェック。

26:00。タクシーにて帰宅。

明日10/26(金)も7:30に幕張メッセに集合のため、5時に目覚ましをかける。

睡眠時間3時間。

毎日が激しい。

社会人生活5年目を一言で表現すると上記のような拙い言葉です。凄まじいはやさで時が流れ、あっという間に大学を卒業して5年が経ちました。上述のような生活をしながらも何とか仕事をこなしていけるのは、1つには小野晃典研究会での経験がいきているのかもしれない。

小野晃典研究会で消費者行動論を学ぶことに加えて、私たち1期生はこの後、何十年と続くこの研究会をどのような研究会にしていくかということで頭がいっぱいでした。よく「つるのや」に集まって、「いいちこ」を飲みながら次回の本ゼミの企画を話し合ったものです。2年間、同じ研究にうちこむためには、強いモチベーションを維持し続ける必要があります。このモチベーションを維持し続けるために本当にいろいろな企画をたて、個々のゼミ生と密に連絡を取り合いました。

「巻き込む」

ゼミ生を巻き込んでいく、先生さえも巻き込んでいく。どんどん自分たちの考えを広げて、ゼミに対するモチベーションを高めていく。

このような密な小野晃典研究会の2年間で社会人になっても、様々なことが相談できる友達が生まれたと思います。ここで生まれた友達は本当に大切です。社会人になって、さらにその気持ちは増しました。なぜなら、社会に足を踏み入れると、問題は複雑さを増し、時には不条理なこともあります。また、変貌を遂げる社会の中では、今まで以上に人との接点が大事にされるからです。複雑で、不条理な社会であるからこそ、情熱を注いで取り組んだ2年間で共有する小野晃典研究会のメンバーは信頼に値するのです。

最後になりますが、小野晃典研究会の会員は5期生を迎えることとなり、総勢92名となります。現在で

は遠方で暮らす会員もおり、年1回のOB・OG会では、すべての方の近況を知ることが難しくなってきました。そこで、OB・OG会誌を発刊することとなりました。是非、この会誌で思う存分語っていただき、小野晃典研究会の結束を深められればと思います。そして、少しでも現役ゼミ生の一助となれば幸いです。



先生の結婚式で祝意を述べる著者